

南池袋公園の再整備外伝

Strategy to redevelop the Minami-Ikebukuro Park from view point of the Parks and Greenery Section at the Local Government

石井 昇 *Noboru ISHII*

豊島区都市整備部
Development of Urban Department, Toshima City



平成 28 年 4 月 2 日、一新した南池袋公園は公園閉鎖後約 6 年半の工事期間を経て、多くの子ども達や来場者とともに開園式を迎えた。これまでの公園整備の計画に反対してきた商店会の方からも「よくやった」とほめていただけた。

豊島区立南池袋公園は、JR 池袋駅と平成 27 年に開庁した新庁舎が立地する東京メトロ有楽町線東池袋駅の間に位置し、両駅から徒歩で約 5 分程度の距離にある面積約 0.8ha の都市公園である。

開園後はカフェレストラン「ラシーヌ」を利用する女性の方やベビーカーによる子供連れの方で大変賑わっている。また官民連携の事例として、「実質 0 円で建設」したマンション一体型新庁舎と併せて多くの自治体の視察者も来園する人気公園となっている。

南池袋公園の概要等は参考文献や区のホームページを参照いただくこととし、今回はランドスケープの仕事として、竣工まで約 10 年を要した公園整備について行政の造園職としての取り組みの実情を述べたい。

1. 一石三鳥の公園整備？

バブルの頃、全国の自治体がそうであったように豊島区でも購入した土地の借金が膨らんだ。あっという間に夢がはじけ、その後の歳入の急減により平成 11 年には豊島区の借金は 872 億円と年間予算規模に匹敵するまでになった。このため人件費の削減や経費の大胆な削減に取り組み、私が課長に赴任した平成 16 年には、南池袋公園の噴水ポンプが故障しても修理予算が認められない状況であった。また、深刻な不況により南池袋公園でもホームレスが多くなり、支援団体が月 6 回も炊き出しを実施したこともあり「怖い」、「子どもを遊びに行かせたくない」と人が寄り付かない公園となった。一方、JR 池袋駅は放置自転車台数が全国ワースト 1 位となるなど駅近傍の駐輪場用地の確保が難しいことから、東口から延びる広幅員道路である「グリーン大通り」の歩道に 600 台の一時自転車駐輪場を設け対応していたが歩行者の安全、景観上も問題となっていた。

このような中、平成 18 年に東京電力より南池袋公園の地下に建築面積 2,000㎡の変電所設置の打診があった。当時東京電力は設置から 50 年以上を経過した池袋駅近傍の老朽変電所の切り替え、民間ビル貸室変電所の追い出しへの対応、建物更新時期を迎えている池袋東口での電力需要増に対応するため、恒久的な変電所の設置用地を池袋駅東側で探していた。区と東京電力双方にメリットがあることから民間資金を活用した公園整備の検討に取り掛かった。

2. ハードルを次々越えるために

行政において企画提案の第一関門は、区としての「政策決定」を得ること、つまり首長を説得しなければならない。翌平成 19 年、池袋駅周辺地区の都市のインフラである電力の安定供給の必要性、実質区の負担 0 円で人が寄り付かない公園の再整備が可能である、地下変電所の 1 階部分の床を無償賃借し、自転車駐輪場（約 1,000 台）として整備することで、グリーン大通りの一時自転車駐輪場を解消できることなど説明し、重要なプロジェクトとして了承を得た。

第二の関門は議会である。平成 20 年、議会の特別委員会において東京電力の職員の出席による質疑を 2 回開催した。一



図-1 現庁舎周辺まちづくりビジョン対象エリア

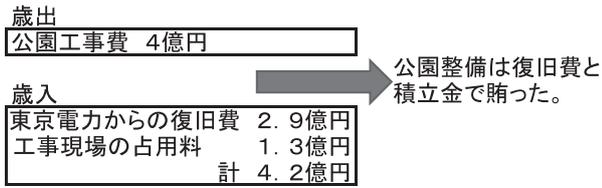


図-2 公園再整備のスキーム

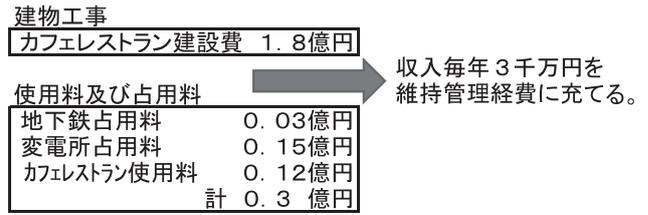


図-3 公園維持管理のスキーム

部政党より大企業に便宜を図っているのではないかと、民間敷地の賃料と同等の賃料を徴収すべきとの厳しい意見もあったが、池袋の発展に不可欠とのことで了解を得た。

第三の関門は地元である。大きくは商店街と町会であるが、ここが難航した。平成20年6月から東京電力の担当者と共に影響範囲の約50m内の個別対応と町会単位での説明会を何回も開催した。商店会の役員会では夜10時過ぎまで紛糾することもたびたび、隣接の寺院では板の間での小一時間の説教など調整に約一年間を要した。

平成21年6月変電所工事説明会を開催し、変電所工事について地元の了解を得た。

ここで一息かと思ったが7月にホームレスの支援団体から抗議を受けた。深刻化する不況もあり配食サービスには毎回600名以上が列をつくり公園を埋め尽くす光景は、終生忘れないものであった。支援団体の抗議は、池袋は上野、新宿と重要な拠点であり南池袋公園の閉鎖は暴挙であるというものであった。新聞4紙、テレビ局4社からの取材、抗議のメール約200通が寄せられ、私は矢面に立ち対応に忙殺された。支援団体やマスコミからは「血も涙もない課長」と糾弾され、地元商店街からは一歩も引くなと板挟み状態なる一方、庁内には味方もない状況であった。それでも責任者として粘り強く面談を重ね、支援団体には単に食料を配布するのではなく自立支援活動を実施する、公園内で煮炊きを行わない、公園利用者や周辺環境に配慮する、活動を月2回とするなどを条件に、他の公園での活動を黙認した。

9月14日、ようやく変電所工事に向け南池袋公園の全面閉鎖を完了した。

3. 今までにない公園

公園閉鎖と時期を同じくして、地元から将来の計画について検討を進めて欲しいとの意見を受け、地域住民の参加によるワークショップ形式で公園のプラン作りが始まったが、町会と商店会と意見が対立し7回の検討後休会となった。

変電所の工事が順調に進む中、平成22年秋には新庁舎の位置が決定した。翌平成23年3月11日には東日本大震災が起これ、帰宅困難者の問題がクローズアップされた。

公園プランの検討の再開は、区が責任を持ってたたき台を作成し双方の意見を聞いたうえで説明会を開催することで再

開した。地元からの最低条件は三点で、①子供や女性が集える公園、②ホームレスなどが居住しない安全・安心な公園、③毎日でも寄れる憩いの場、これの実現が求められた。それらの条件に加えて、公園自らの収入で維持管理費を賄う自立した公園を目指し(図-2、図-3参照)、その要となる全国チェーン店でない個性的なカフェレストランを選定することができたことが、人気の公園となった大きな要因である。このことは平成24年から公園の設計に携わった平賀達也氏に負うところが大変大きい。

4. めげない、逃げない、くじけない

南池袋公園再整備の初めから竣工まで関わる事ができた。住民合意の形成には多くの時間と労力を注ぎ、信頼関係の構築に努力した。それには「できること、できないこと」を明確にし、言動に一貫性を持たせ「逃げない」姿勢が大切である。その場しのぎは見透かされるものである。

いい環境にしたいのは行政も区民も同じであり、見方の違いだけなので、相手の話をじっくり聞きながら解決策を見出すコミュニケーション力も大切である。

南池袋公園の成功により、ランドスケープによってまちを変えることができることを地域の方々に示すことができたことは大変大きく、公園をまちづくりの起爆剤とした「4つの公園構想」、旧庁舎跡地・池袋西口公園の再整備、造幣局跡地防災公園のプロジェクトチームのスピード感のある立ち上げにもつながっている。

この世界に足を踏み込んだ方、これから踏み込もうとしている方々、公園の可能性に賭けてみませんか。

略歴：東京都生まれ。東京農業大学農学部造園学科卒。2014年より現職。公園緑地の設計・管理、景観行政、地区計画などのまちづくりに携わる。

参考文献

- 「LANDSCAPE DESIGN」、マルモ出版、2015.No104、22-35
- 「新建築」、(株)新建築社、2016.7、40-45
- 「都市公園」、(財)東京都公園協会、2016.9、40-43